



川辺祇園祭(オギオンサア)は、大正14年から続く伝統行事で、今年で92年目を迎えました。晴天の中、約1kmの御神爾御巡幸に続き、山車・神輿・踊り連が練り歩き、観客を魅了しました。

この祇園祭のおこりは、当時の川辺町商業組合の機関である商議会を中心に、地域商工業の振興と会員の親睦を図ることを目的に、この祭事の誘致と商いの信仰の対象として八坂神社を建立する議を進め、大正14年7月に岡野吉太郎会長と川野藤助会計係ら3人が京都に伺い、京都八坂神社に勧請分祀の願いを行い、現在の場所(諏訪補助グランド近く)に八坂神社を建立し、この年に第1回の「オギオンサア」が行われたようです。ご神幸に必要な御輿・山鉾など一式のお道具を求め、山車は地元で建造したようです。当時の会員はわずか四十余人で、全員紋付き袴の正装で参列したようです。初めての祇園祭でありましたが、町をあびえての人出となり商店は軒ごとに酒を振る舞い商品も割引いて景気づけたといふことです。

参考文献：故、川野藤雄氏著
「語り継ぐふるさと川辺の歴史」

川辺祇園祭

走火大会

八坂神社



商業の護りの神、須佐之男命を奉祀する京都八坂神社を勧請分祀し、稲田比寿命と併せて平山諏訪の丘に建立されました。高台から川辺町商店街を見守ってくれています。

御所車



川辺独自の仏壇技術である7つの工程(木地・彫刻・宮殿・金具・時絵・塗り・仕上げ)を取り入れ、延べ八百人の仏壇職人が作業に参加し製作された外に類を見ない豪華さが特徴です。

御神爾御巡幸



▲発幸祭＝巡幸する前に、八坂神輿(右)に御神霊を頂く儀式です。
▼御神霊を乗せ、巡行します。



八坂神輿

稚児行列



男山車



女山車



神官車



弐番神輿



壹番神輿



稚児上げ



パレード・山車
神輿連・踊り連



花火大会

花火大会会場までの道路
際には、紙灯籠が並べられ、ゆ
らゆらと揺れながら、やさし
い光で足元を照らしてくれま
した。



川辺祇園祭実行委員会
会長 原口和秋さん

「川辺祇園祭」は、平安
時代初期、全国に流行し
た疫病を退散させるため
に始まったといわれる京
都八坂神社の祭りが源流
で、地域代々、世代から世
代へと繋いで今年で92年
目になっております。
祭りは、まつり合わせで
あり、地域の繁栄と幸せ
を願う多くの方々の思い

「川辺祇園祭」は、平安
時代初期、全国に流行し
た疫病を退散させるため
に始まったといわれる京
都八坂神社の祭りが源流
で、地域代々、世代から世
代へと繋いで今年で92年
目になっております。
祭りは、まつり合わせで
あり、地域の繁栄と幸せ
を願う多くの方々の思い

が集まり和して初めて実
現できます。
この祇園祭を継続して
いくことで、地域への和の
精神が次世代へと引き継
がれていくことを願って
おります。

今後とも、多くの方々
のご協力とご支援のも
と、この祇園祭・花火大会
を続けて参りたいと思っ
ます。

これまで、ご協力・ご支
援いただきました多くの
皆様には今後ともご協力
いただけますようお願い
し、心より感謝申し上げ
ます。

音楽に乗せて打
ち上げるミュージッ
ク花火や思いを綴
り打ち上げるメッ
セージ花火約2千
発が真夏の夜を鮮
やかに染めました。
ファイナレを飾る
連続花火は圧巻で、
惜しめない拍手と歓
声が会場を包みま
した。